

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	定期文化事業			事業開始年度	平成17年度		
担当課	教育委員会 生涯学習課			担当者	小堀将孝		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	03	文化薫る心豊かな人材の育成				
	施策	02	芸術・文化・歴史があふれる市民文化の継承				
	基本事業	01	芸術文化活動の推進				
事業の目的	さくら市民が芸術鑑賞の機会を増やす事により、文化芸術への理解の向上や市民の事業参画、文化芸術活動の活発化も目指す。支出金額に対する1人当たりの単価の減少。						
事業の概要	定期的に文化芸術の良さ、素晴らしさが市民に伝わるような文化振興事業を実施。幅広く質の高い出演者を選定し、無料、受益者負担で行い、市民への参加選択肢を広げる。						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	28年度		29年度		30年度	
	実績/当初予算	実績		実績		当初	
	総事業費	6,955		6,908		7,301	
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	28年度 実績	29年度 実績	30年度 計画	31年度 計画
	成果	鑑賞率	%	14.4	10.6	10.2	10.2
達成度の評価と説明	評価	●達成、概ね達成した ○多少は達成した ○達成できず					
	説明	平成29年度の目標鑑賞率8.9%に対し、実績10.2%と概ね達成した。また有料公演も3回実施し、受益者負担の手段も探ることのできる内容となった。					
見直し余地	判定	●数年内に見直し可能 ○余地はあるがまだ時間が必要 ○余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	●見直し継続 ○現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	●拡大 ○現状 ○縮小			業務量	●拡大 ○現状 ○縮小	

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	児童生徒対象文化芸術振興事業			事業開始年度	平成19年度		
担当課	教育委員会 生涯学習課		担当者	高木奈保子			
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	03	文化薫る心豊かな人材の育成				
	施策	02	芸術・文化・歴史があふれる市民文化の継承				
	基本事業	01	芸術文化活動の推進				
事業の目的	質の高い音楽鑑賞、演劇鑑賞が行えるようにする。音楽、演劇を学ぶ児童生徒の技術向上のきっかけが提供される。児童生徒の時期に芸術、文化への理解、興味が抱かれる。						
事業の概要	各校に内容や日程の調整を実施して、候補となる音楽家に交渉、実施の運びとなる。小学校は音楽授業の一環として45分間、中学校は60分程度の音楽鑑賞機会の提供を行う。						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	28年度		29年度		30年度	
	実績/当初予算	実績		実績		当初	
	総事業費	509		461		840	
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	28年度 実績	29年度 実績	30年度 計画	31年度 計画
	成果	音楽・演劇鑑賞教室に参加した児童・生徒の数	人	3,919	3,808	3,830	3,830
達成度の評価と説明	評価	●達成、概ね達成した ○多少は達成した ○達成できず					
	説明	文化芸術による子供の育成事業（芸術家の派遣事業）を得て、事業費の削減を行いながら、さくら市内の全小学校児童、全中学校生徒に音楽鑑賞の機会提供を行えた。					
見直し余地	判定	○数年内に見直し可能 ○余地はあるがまだ時間が必要 ●余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	○見直し継続 ●現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	○拡大 ●現状 ○縮小		業務量	●拡大 ○現状 ○縮小		

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	野州田植唄保存会補助事業	事業開始年度	平成17年度
担当課	教育委員会 生涯学習課	担当者	高木奈保子

■事業の執行計画【計画（Plan）】

総合計画体系	政策	03	文化薫る心豊かな人材の育成
	施策	02	芸術・文化・歴史があふれる市民文化の継承
	基本事業	02	歴史的文化的資源の保存・継承・利活用
事業の目的	市指定の無形民俗文化財の保護を継続し、野州田植唄を唄える市民が絶えず、保存されることを目的とする。		
事業の概要	市指定の無形民俗文化財を保護するとともに団体・後継者の育成を行うため、補助金（年間65,000円）による支援を行う。		

■事業実施結果【実施（Do）】

事業費の推移	年度	28年度	29年度	30年度
	実績/当初予算	実績	実績	当初
	総事業費	65	65	65

■前年度の事業分析【評価（Check）】

指標の推移	指標区分	指標名称	単位	28年度 実績	29年度 実績	30年度 計画	31年度 計画
	活動	活動日数	日	28	28	28	28

達成度の評価と説明	評価	●達成、概ね達成した ○多少は達成した ○達成できず					
	説明	田植えの時期に、練習を重ね、市指定無形民俗文化財の披露と周知を行い、後世に保存継承していく。					

見直し余地	判定	○数年内に見直し可能 ○余地はあるがまだ時間が必要 ●余地なし					
-------	----	---------------------------------	--	--	--	--	--

■将来方向性【改善（Action）】

事業の方向性	○見直し継続 ●現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	○拡大 ●現状 ○縮小	業務量	○拡大 ●現状 ○縮小			

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	代々岩戸神楽保存会補助事業			事業開始年度	平成17年度		
担当課	教育委員会 生涯学習課			担当者	高木奈保子		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	03	文化薫る心豊かな人材の育成				
	施策	02	芸術・文化・歴史があふれる市民文化の継承				
	基本事業	02	歴史的文化的資源の保存・継承・利活用				
事業の目的	市指定の無形民俗文化財の保護を継続し、代々岩戸神楽を舞える市民が絶えず、保存されることを目的とする。						
事業の概要	市指定の無形民俗文化財を保護するとともに団体・後継者の育成を行うため、補助金（年間69,000円）による支援を行う。						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	28年度		29年度		30年度	
	実績/当初予算	実績		実績		当初	
	総事業費	69		69		69	
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	28年度 実績	29年度 実績	30年度 計画	31年度 計画
	活動	活動日数	日	25	24	24	24
達成度の評価と説明	評価	●達成、概ね達成した ○多少は達成した ○達成できず					
	説明	夏以降練習を重ね、市指定無形民俗文化財の披露と周知を行い、後世に保存継承していく。					
見直し余地	判定	○数年内に見直し可能 ○余地はあるがまだ時間が必要 ●余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	○見直し継続 ●現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	○拡大 ●現状 ○縮小		業務量	●拡大 ○現状 ○縮小		

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	文化財保護事務		事業開始年度	平成17年度			
担当課	教育委員会 生涯学習課		担当者	高木奈保子			
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	03	文化薫る心豊かな人材の育成				
	施策	02	芸術・文化・歴史があふれる市民文化の継承				
	基本事業	02	歴史的文化的資源の保存・継承・利活用				
事業の目的	市指定文化財が適切な形で将来に向け保護管理されること。文化財保護法にある一般公開が適切に行われること。市民が指定文化財への理解の高揚を目的とする。						
事業の概要	市内指定文化財の周知、普及啓発、維持管理及び指導助言や事務。さくら市文化財保護審議会からの指導助言を得る。県、市指定文化財所蔵管理者に対する管理報償金の交付。						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	28年度		29年度		30年度	
	実績/当初予算	実績		実績		当初	
	総事業費	1,064		924		1,251	
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	28年度 実績	29年度 実績	30年度 計画	31年度 計画
	成果	指定文化財数	件	213	213	213	
達成度の評価と説明	評価	●達成、概ね達成した ○多少は達成した ○達成できず					
	説明						
見直し余地	判定	●数年内に見直し可能 ○余地はあるがまだ時間が必要 ○余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	●見直し継続 ○現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	●拡大 ○現状 ○縮小		業務量	●拡大 ○現状 ○縮小		

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	さくら市歴史資料保存・活用事業			事業開始年度	平成22年度		
担当課	教育委員会 生涯学習課		担当者	小竹弘則			
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	03	文化薫る心豊かな人材の育成				
	施策	02	芸術・文化・歴史があふれる市民文化の継承				
	基本事業	02	歴史的文化的資源の保存・継承・利活用				
事業の目的	継続して市の貴重な歴史資料調査を実施することで市の歴史を伝える貴重な歴史資料が散逸することなく収集され、これを市民が活用し、後世に継承する。						
事業の概要	氏家町史・喜連川町史編さん事業で収集した歴史資料を整理保存する。 市内の歴史資料調査を継続して実施し、収集を行う。						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	28年度		29年度		30年度	
	実績/当初予算	実績		実績		当初	
	総事業費	6,697		5,864		7,113	
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	28年度 実績	29年度 実績	30年度 計画	31年度 計画
	成果	保存された延べ歴史資料数	点	8,281	8,746	9,146	9,546
	成果	今年度収蔵の歴史資料	点	2,044	465	400	400
達成度の評価と説明	評価	●達成、概ね達成した ○多少は達成した ○達成できず					
	説明	29年度は歴史的行政文書465点、市内所在古文書等825点の調査を行った。					
見直し余地	判定	○数年内に見直し可能 ○余地はあるがまだ時間が必要 ●余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	○見直し継続 ●現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	○拡大 ●現状 ○縮小		業務量	●拡大 ○現状 ○縮小		

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	旧役場庁舎移築復元事業			事業開始年度	昭和22年度		
担当課	教育委員会 生涯学習課		担当者	小竹弘則			
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	03	文化薫る心豊かな人材の育成				
	施策	02	芸術・文化・歴史があふれる市民文化の継承				
	基本事業	02	歴史的文化的資源の保存・継承・利活用				
事業の目的	文化財を復元し、将来にわたってその価値が損なわれない状態で保存・公開し、市民が郷土の歴史を学習する。						
事業の概要	さくら市有形文化財である旧氏家町役場庁舎と旧熟田村役場庁舎を解体し、ミュージアム民家広場西側へ復元し保存する。						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	28年度		29年度		30年度	
	実績/当初予算	実績		実績		当初	
	総事業費	0		0		0	
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	28年度 実績	29年度 実績	30年度 計画	31年度 計画
	活動	復元旧役場庁舎㎡あたり維持管理費	円/㎡	0	0	0	0
	活動	復元旧役場庁舎利用者数		0	0		
達成度の評価と説明	評価	○達成、概ね達成した ○多少は達成した ●達成できず					
	説明	事業実施のためには、利活用法の策定が必要。					
見直し余地	判定	●数年内に見直し可能 ○余地はあるがまだ時間が必要 ○余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	●見直し継続 ○現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	○拡大 ○現状 ●縮小		業務量	●拡大 ○現状 ○縮小		

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	市指定文化財修理補助事業			事業開始年度	平成17年度		
担当課	教育委員会 生涯学習課			担当者	高木奈保子		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	03	文化薫る心豊かな人材の育成				
	施策	02	芸術・文化・歴史があふれる市民文化の継承				
	基本事業	02	歴史的文化的資源の保存・継承・利活用				
事業の目的	後世まで保存していく必要のある市指定文化財を、修理等により保存していくことを目的とする。						
事業の概要	市指定文化財を保存していく上で、修理が必要となった場合その補助対象経費の1/2以内（上限500万円）を限度として補助する。						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	28年度		29年度		30年度	
	実績/当初予算	実績		実績		当初	
	総事業費	469		854		171	
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	28年度 実績	29年度 実績	30年度 計画	31年度 計画
	成果	補助金を受けて修理した件数	件	2	1	1	1
達成度の評価と説明	評価	●達成、概ね達成した ○多少は達成した ○達成できず					
	説明	当初予定していた修理に対して、滞りなく補助金を支出出来た。					
見直し余地	判定	○数年内に見直し可能 ○余地はあるがまだ時間が必要 ●余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	○見直し継続 ●現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	○拡大 ●現状 ○縮小		業務量	●拡大 ○現状 ○縮小		

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	瀧澤家住宅保存事業			事業開始年度	平成25年度		
担当課	教育委員会 生涯学習課			担当者	小堀将孝		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	03	文化薫る心豊かな人材の育成				
	施策	02	芸術・文化・歴史があふれる市民文化の継承				
	基本事業	02	歴史的文化的資源の保存・継承・利活用				
事業の目的	適正な維持管理をしながら、施設の積極的な利活用を行っていく。その中で、市民が積極的に利用し、また、さくら市の地域振興にもつながる文化財施設にしていく。						
事業の概要	県指定文化財瀧澤家住宅を保護や維持管理をしながら平成27年度に策定した利活用計画や平成29年度策定予定の整備計画に従い、修理や整備、利活用の準備を行う。						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	28年度		29年度		30年度	
	実績/当初予算	実績		実績		当初	
	総事業費	28,054		17,426		13,852	
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	28年度 実績	29年度 実績	30年度 計画	31年度 計画
	成果	利用者数	人	4,768	3,670	0	3,500
達成度の評価と説明	評価	●達成、概ね達成した ○多少は達成した ○達成できず					
	説明	計画利用者数3500名に対して、3670名の実績となった。					
見直し余地	判定	○数年内に見直し可能 ●余地はあるがまだ時間が必要 ○余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	○見直し継続 ●現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	●拡大 ○現状 ○縮小			業務量	●拡大 ○現状 ○縮小	

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	歴史・文化を通じた地域づくり事業			事業開始年度	平成25年度		
担当課	教育委員会 生涯学習課			担当者	小堀将孝		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	03	文化薫る心豊かな人材の育成				
	施策	02	芸術・文化・歴史があふれる市民文化の継承				
	基本事業	02	歴史的文化的資源の保存・継承・利活用				
事業の目的	文化財の積極的利活用とその周知。大学と連携した事業実施。市民の文化財保護意識の高揚。若い世代の文化財保護意識の浸透と実施経験実現						
事業の概要	さくら市の文化振興や瀧澤家住宅などの文化財の活用や周知を大学や市民と連携して実施する。						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	28年度		29年度		30年度	
	実績/当初予算	実績		実績		当初	
	総事業費	946		2,421		2,479	
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	28年度 実績	29年度 実績	30年度 計画	31年度 計画
	成果	参加者数	人	4,768	3,670	0	3,500
達成度の評価と説明	評価	●達成、概ね達成した ○多少は達成した ○達成できず					
	説明	計画参加者数3500名に対して、3670名の実績となった。					
見直し余地	判定	○数年内に見直し可能 ●余地はあるがまだ時間が必要 ○余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	○見直し継続 ●現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	○拡大 ●現状 ○縮小		業務量	●拡大 ○現状 ○縮小		

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	ミュージアム施設維持管理事業			事業開始年度	平成17年度		
担当課	教育委員会 生涯学習課			担当者	小竹弘則		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	03	文化薫る心豊かな人材の育成				
	施策	02	芸術・文化・歴史があふれる市民文化の継承				
	基本事業	03	博物館の整備・充実				
事業の目的	年間を通じて正常な運営（管理）を行う。						
事業の概要	ミュージアム－荒井寛方記念館－の適切な維持管理						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	28年度		29年度		30年度	
	実績/当初予算	実績		実績		当初	
	総事業費	27,597		33,070		34,845	
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	28年度 実績	29年度 実績	30年度 計画	31年度 計画
	成果	延べ床面積1㎡あたりに要する費用	円	9,564	10,611	12,061	108,000
達成度の評価と説明	評価	●達成、概ね達成した ○多少は達成した ○達成できず					
	説明	保守管理業務等をはじめ、計画通りの事業実施が行われ適正な運営ができた。					
見直し余地	判定	○数年内に見直し可能 ○余地はあるがまだ時間が必要 ●余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	○見直し継続 ●現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	●拡大 ○現状 ○縮小			業務量	●拡大 ○現状 ○縮小	

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	特別・企画展等開催事業	事業開始年度	平成26年度
担当課	教育委員会 生涯学習課	担当者	大木礼子

■事業の執行計画【計画（Plan）】

総合計画体系	政策	03	文化薫る心豊かな人材の育成
	施策	02	芸術・文化・歴史があふれる市民文化の継承
	基本事業	03	博物館の整備・充実
事業の目的	博物館資料の展示・公開を通じて、地域の歴史、民俗、自然等を学び、地域への理解・関心・愛着を高めてもらう。		
事業の概要	テーマを持たせた資料観覧の機会を提供する。 ①企画展の開催 ②ギャラリー・トーク ③作品解説会・講演会		

■事業実施結果【実施（Do）】

事業費の推移	年度	28年度	29年度	30年度
	実績/当初予算	実績	実績	当初
	総事業費	13,816	9,385	9,999

■前年度の事業分析【評価（Check）】

指標の推移	指標区分	指標名称	単位	28年度	29年度	30年度	31年度
				実績	実績	計画	計画
成果	特別・企画展入館者数	人	45,044	35,430	23,000	23,000	

達成度の評価と説明	評価	●達成、概ね達成した ○多少は達成した ○達成できず
	説明	地域に根差した博物館活動の展開を行い、平成29年度は地域に根差した喜連川地区に関する「お殿さま展」や、現代日本画の巨匠展、夏の家族向け展示等、来館者層が観覧する際にバランスの取れた展示が実現した。教育普及に寄与できたものと思われる。

見直し余地	判定	●数年内に見直し可能 ○余地はあるがまだ時間が必要 ○余地なし
-------	----	---------------------------------

■将来方向性【改善（Action）】

事業の方向性	○見直し継続 ●現状どおり継続 ○廃止・完了			
資源方向性	予算額	○拡大 ○現状 ●縮小	業務量	●拡大 ○現状 ○縮小

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	博物館作品購入等事業			事業開始年度	平成26年度		
担当課	教育委員会 生涯学習課			担当者	大木礼子		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	03	文化薫る心豊かな人材の育成				
	施策	02	芸術・文化・歴史があふれる市民文化の継承				
	基本事業	03	博物館の整備・充実				
事業の目的	郷土の歴史や美術など資料や作品を収集保存し、展示や調査研究の充実化を図る。郷土の歴史や文化に対する市民の理解を深めるとともに、後世に伝える。						
事業の概要	郷土の歴史や美術に関わりの深い資料や作品を未来に残すために購入する。併せて収蔵資料を拡充しながらこれらを企画展等により一般に公開する。						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	28年度		29年度		30年度	
	実績/当初予算	実績		実績		当初	
	総事業費	577		9,781		1,100	
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	28年度 実績	29年度 実績	30年度 計画	31年度 計画
	成果	購入並びに寄託、寄贈資料・作品 収蔵数	点	33,642	33,690	33,664	33,664
			点				
達成度の評価と説明	評価	●達成、概ね達成した ○多少は達成した ○達成できず					
	説明	博物館活動に必要な、資料・作品の収蔵が行われた。					
見直し余地	判定	○数年内に見直し可能 ○余地はあるがまだ時間が必要 ●余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	○見直し継続 ●現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	●拡大 ○現状 ○縮小			業務量	●拡大 ○現状 ○縮小	

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	ミュージアム来館促進事業			事業開始年度	平成26年度		
担当課	教育委員会 生涯学習課			担当者	大木礼子		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	03	文化薫る心豊かな人材の育成				
	施策	02	芸術・文化・歴史があふれる市民文化の継承				
	基本事業	03	博物館の整備・充実				
事業の目的	博物館の活動内容を多くの人に周知し、来館者の促進を図る。						
事業の概要	○リーフレットの作成・配布 ○新たなミュージアムグッズの開発・販売 ○メディアの取材等及び事業の共催						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	28年度		29年度		30年度	
	実績/当初予算	実績		実績		当初	
	総事業費	3,663		4,955		6,176	
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	28年度 実績	29年度 実績	30年度 計画	31年度 計画
	成果	年間延べ来館者数	人	45,022	35,430	23,000	23,000
	成果						
達成度の評価と説明	評価	●達成、概ね達成した ○多少は達成した ○達成できず					
	説明	展覧会に併せて折り込みちらしへの掲載、来館者への展示のわかりやすい印刷物の配布、広報等に力を入れた。					
見直し余地	判定	●数年内に見直し可能 ○余地はあるがまだ時間が必要 ○余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	●見直し継続 ○現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	●拡大 ○現状 ○縮小			業務量	●拡大 ○現状 ○縮小	